



かべ新聞 **絆** (きずな) <令和6年3月号-②>

地域住民同士の「つどう」「まなぶ」「むすぶ」を支援し、
人づくりと地域づくりに貢献します！

打田地区公民館
令和6年3月19日
文責:館長
田村 幸美
(電話0736-77-3140)

青少年健全育成推進協議会打田支部の活動について紹介します！！

現在の社会は目まぐるしく変化し、子どもたちを取り巻く環境の変化も著しい状況にあります。インターネットで動画を見ることが多くなり、一昔前までは家庭や遊びのなかで経験してきた、実体験の機会がかなり減ってきています。

そうしたことから、紀の川市青少年健全育成推進協議会打田支部（事務局打田生涯学習センター）では、子どもたちの健やかな成長を願い、普段経験することのないことを体験する機会を提供するため、小学生を対象に年間約3回の工作教室と、紀の川市外での体験事業を行っています。事業実施に際しては、地域の推進員がサポートを行っています。

また、地域社会も少しずつ変化し、地域で子どもたちを見守り育てることが難しくなってきたこと、「近所のおちゃん・おばちゃん」とのふれあいも少なくなってきたことから、中学生との交流の機会もつくるなど、地域の子どもの健全な育成のために日々活動しています。

★打田中学校卒業生コサージュ作り (2/14・水)

中学生との交流事業として、今年度初めて3年生が卒業式の際に胸に付けるコサージュ作りを、生徒たちと放課後に一緒に作りました。生徒会役員・在校生の併せて20名と、青少年健全育成推進員9名に有志の2名を加えた合計31人で、160個のコサージュを作りました。はじめは作り方がわからなかった生徒も、推進員と一緒に作業するうちに慣れ、熱心に作っていました。3月8日の卒業式当日、みんなで作ったコサージュが卒業生の胸を飾り門出を祝いました。

▼▶作成の様子



打田中学校卒業式 卒業生の様子

卒業おめでとう！！



★食品サンプルを作ろうイチゴのケーキ (3/9・土) 誤食に注意？！

本年度最後の工作教室の開催にあたり募集を行ったところ、定員20名のところ27名の申し込みがあり、抽選を行っての実施となりました。参加者は、講師の先生からいちごなどのパーツをろうから作る説明をうけ、ホイップクリームの代わりになるコーキング材を絞り袋に入れ、絞り方も教えてもらいました。各自イチゴやパイナップルなどをケーキの上に置きデコレーションしました。パーツの作成時にエッセンスを入れて香り付けもしているので、ほんのりイチゴなどの香りがします。見た目も香りも「本当に食べたくなるケーキ」の完成です。時間が経つと固まってしまうのでみんな集中して取り組みました。



▲体験の様子

食品サンプルって…

大正時代初期、当時の日本では写真技術が進んでいなかったことで、造形の美術が発達し衛生試験所などで「料理模型」が作られました。当初は寒天などを用いて型を取っていたそうです。大正12年、模型の使用材料をろうに変え、百貨店食堂で使用されたのが、食品サンプルの始まりといわれています。

現在は、シリコンや他の材料でさらにリアルなものになるよう改良されています。食品サンプルを使って集客を促すのは、日本特有だそうです。